

北見工業大学学報

第270号 (2015年7月号)

目 次

入 試	平成28年度入学者選抜要項の公表	3
	平成28年度編入学試験の実施	5
研 究 助 成	平成27年度共同研究の受入状況	6
	平成27年度受託研究の受入状況	7
	平成27年度奨学寄附金の受入状況	7
人 事	人事異動	8
諸 報	蔵書交換展示を実施	9
	「研究倫理に関する説明会」を開催	10
	今年もNHK学生ロボコン本選大会に出場	11
	北見市と包括的連携に関する協定を締結	12
	東北地区進学相談会を実施	13
	ハラスメント防止研修を実施	14
	父母懇談会(春季・北見)を開催	15
	ブックリユース「本、さしあげます。」を開催	16
	「研究室公開」を実施	17
	平成26年度教育優秀者表彰式を実施	18
	産学連携学会全国大会を開催	19
	地域イベントで学生が活躍	20
	「オホーツク地域活力支援包括連携協力に係る 網走開発建設部現場見学会」に参加	21
技術セミナー「技術士養成支援講座」の閉講式	22	
平成27年度第1回パソコン講習会を開催	23	

	テクノトランスファーinかわさき 2015 に出展	24
	技術セミナー(CPD プログラム認定講座)を開催	25
	学生選書ツアーを実施	26
	留辺薬小の科学教室 本学学生が先生に	27
	第 62 回北見ぼんちまつり舞踊パレードに参加	28
	北洋銀行ものづくりテクノフェア 2015 に出展	29
	オープンキャンパスを開催	30
	平成 27 年度工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業開講式	31
	子ども霞が関見学デーに出展	32
目 誌	6 月・7 月	33

= 入試 =

平成 28 年度入学者選抜要項の公表

(入 試 課)

平成 28 年度入学者選抜要項が公表されました。概要は以下のとおりです。

○入学定員（募集人員）

系・学科名		入学定員	募集人員		
			前期日程	後期日程	推薦入試
機械・社会環境系	機械工学科	160 人	64 人	56 人	40 人
	社会環境工学科				
情報電気エレクトロニクス系	電気電子工学科	140 人	60 人	45 人	35 人
	情報システム工学科				
バイオ環境・マテリアル系	バイオ環境化学科	110 人	46 人	36 人	28 人
	マテリアル工学科				
工学部合計		410 人	170 人	137 人	103 人

※ 入学後1年間は各系に所属し、2年次進級時に本人の志望及び学業成績により系内の学科に移行します。

注① 後期日程の募集人員には、各系とも帰国子女特別入試の募集人員若干人を含みます。

② 推薦入試の合格者が募集人員に満たない場合は、その不足した人員を後期日程の募集人員に加えて募集します。

○選抜方法等

一般入試

	前期日程	後期日程
選抜方法	大学入試センター試験の成績及び出身学校長から提出された調査書の内容を総合して行う。	大学入試センター試験の成績、本学が行う個別学力検査の成績及び出身学校長から提出された調査書の内容を総合して行う。
出願期間	平成28年1月25日(月)～平成28年2月3日(水)	
試験日	個別試験は課さない	平成 28 年 3 月 12 日(土)
合格発表	平成28年3月7日(月)	平成 28 年 3 月 20 日(日)

推薦入試

選抜方法	学校長より推薦された者について、基礎学力確認試験、面接の結果及び出願書類の内容を総合して行う。
出願期間	平成 27 年 11 月 2 日（月）～ 平成 27 年 11 月 9 日（月）
出願要件	高等学校又は中等教育学校を平成28年3月卒業見込みの者で、次の三つの条件を満たし、かつ志望する系への能力・適性等について 学校長が責任を持って推薦できるもの ① 高等学校又は中等教育学校における学習成績・人物ともに優れ、特に数学、理科の成績が優秀な者 ② 志望する系の分野に強い勉学意識と関心を持ち、大学での学習において優れた成果が期待できる者 ③ 合格した場合は、必ず入学する意思を持つ者
選抜期日	平成 27 年 11 月 27 日（金）
合格発表	平成 27 年 12 月 9 日（水）

帰国子女特別入試

選抜方法	個別学力検査及び大学入試センター試験を免除し、基礎学力確認試験、面接の結果及び出願書類の内容を総合して行う。
出願期間	平成 27 年 11 月 2 日（月）～ 平成 27 年 11 月 9 日（月）
出願要件	略
選抜期日	平成 27 年 11 月 27 日（金）
合格発表	平成 27 年 12 月 9 日（水）

平成 28 年度編入学試験の実施

(入 試 課)

平成 28 年度編入学試験（推薦入試、学力試験入試）が実施され、各学科別の合格者数等は下表のとおりとなりました。

なお、編入学試験（社会人特別入試）については志願者がいなかったため、実施されませんでした。

学科名	推薦入試				学力試験入試			
	募集人員	志願者	受験者	合格者	募集人員	志願者	受験者	合格者
機 械 工 学 科	10	1	1	1	若干人	0	0	0
社会環境工学科		0	0	0		0	0	0
電気電子工学科		1	1	1		0	0	0
情報システム工学科		0	0	0		0	0	0
バイオ環境化学科		0	0	0		0	0	0
マテリアル工学科		0	0	0		1	1	1
合 計		2	2	2		1	1	1

= 研究助成 =

平成27年度共同研究の受入状況

(研究協力課)

平成27年7月31日現在

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
電気電子工学科	教授	田村 淳二	電力系統-機器連携解析技術に関する研究	株式会社日立製作所研究開発グループ テクノロジーイノベーション統括本部
社会連携推進センター	教授	有田 敏彦	氷蓄熱式牛乳廃熱利用ヒートポンプ給湯システムの市場性に関する調査研究	合同会社ほっかいどう新エネルギー事業組合
機器分析センター	准教授	大津 直史	リン酸カルシウム被覆マグネシウム表面の表面特性に関する研究	国立研究開発法人物質・材料研究機構
社会環境工学科	教授	中山 恵介	常呂川水系水質調査研究	常呂川水系環境保全対策協議会
機器分析センター	准教授	大津 直史	銀徐放性抗菌材料の開発	エビナ電化工業株式会社
電気電子工学科	教授	柴田 浩行	超伝導体を用いた検出器の研究	日本電信電話株式会社 NTT物性科学基礎研究所
バイオ環境化学科	准教授	小西 正朗	寒冷地の効率的浄水処理に関する研究	北見市上下水道局
機械工学科	助教	石谷 博美	PCVガス除湿システム基礎研究 その2	株式会社ワークム北海道
社会連携推進センター	センター長	川村 彰	メタン直接改質技術による活力ある低炭素地域社会の広域構築	北見市
バイオ環境化学科	准教授	岡崎 文保	廃プラスチックガス化反応メカニズムに関する研究	JFEスチール株式会社
バイオ環境化学科	准教授	小西 正朗	麹菌の液体培養に関する研究	キッコーマン食品株式会社商品開発本部
電気電子工学科	助教	杉坂 純一郎	フォトリソグラフィによるレーザ光の取り出しに関する研究	株式会社東芝 生産技術センター
社会環境工学科	准教授	駒井 克昭	自然環境の保全に向けたプロジェクト	株式会社西村組
マテリアル工学科	教授	川村 みどり	(非公開)	(非公開)
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	積雪寒冷環境における水道管の浅層埋設に関する研究	北見市上下水道局

平成27年度累計51件

平成27年度受託研究の受入状況

(研究協力課)

平成27年7月31日現在

所 属	職 名	研究担当者	研究題目	委託機関	所要経費 円
社会環境工学科	助教	吉川 泰弘	結水河川における晶水の発生予測と取水障害対策の開発	旭川開発建設部	1,656,720
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	生物多様性を確保するための最適横断面形状と水理量に関する研究	国立大学法人北海道大学	1,000,000

平成27年度累計10件

平成27年度奨学寄附金の受入状況

(研究協力課)

平成27年7月31日現在

所 属	職 名	研究者	寄附目的	寄附者	寄附金額 円
バイオ環境化学科	准教授	新井 博文	ハマナス精油研究の補助のため	株式会社ハーバー研究所	512,000
機械工学科	教授	大橋 鉄也	「鉄鋼インフォマティクス」に関する研究助成	一般社団法人日本鉄鋼協会	100,000
機械工学科	教授	鈴木 聡一郎	スキーブーツに関わる工学研究のため	ブレイン株式会社	100,000
社会環境工学科	助教	吉川 泰弘	寒冷地河川における結氷メカニズム解明の指導	株式会社福田水文センター	500,000
社会環境工学科	助教	川尻 峻三	「表面波探査の高度利用による積雪寒冷地における道路盛土の健全性評価手法の開発」の研究助成のため (平成27年度道路保全地盤技術向上の調査・研究助成)	公益社団法人地盤工学会	1,880,000
機械工学科	准教授	高井 和紀	住宅室内空気質の分析調査	特定非営利活動法人日本VOC測定協会	200,000
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	研究のため	一般財団法人北海道河川財団	1,000,000
機械工学科	教授	鈴木 聡一郎	スキーブーツ設計に関わる工学研究のため	株式会社レクザム	100,000
社会環境工学科	教授	高橋 清	地域と協働したインフラマネジメント研究の充実発展のため	株式会社シビテック	500,000
社会環境工学科	教授	高橋 清	工学研究のため	株式会社ドーコン	750,000
社会環境工学科	准教授	中村 大	工学研究の為	斉藤井出建設株式会社	30,000
社会環境工学科	助教	崔 希燮	工学研究の為	斉藤井出建設株式会社	30,000
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	奨学研究費	太平洋セメント株式会社	300,000
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	学術研究助成の為	株式会社構研エンジニアリング	1,000,000
社会環境工学科	教授	高橋 清	工学研究のため	株式会社ドーコン	300,000
社会環境工学科	助教	渡邊 達也	「構造土の形成・形態維持プロセスの新提案に向けた実験的研究」助成のため (平成27年度公益財団法人国土地理協会学術研究助成金)	公益財団法人国土地理協会	712,000
機械工学科	准教授	星野 洋平	ママチャリレース・ロボコン等の課外活動の参加支援	星野 洋平	100,000

平成27年度累計34件

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	新職名（発令事項）
27.6.30	財務課係長	脇坂 和典	辞職（北海道大学へ転出）
27.7.1	学生支援課副課長	斉藤 順	学生支援課副課長（係長兼務）
〃	情報図書課専門職員	高橋 定志	総務課付専門職員
〃	北海道大学病院経営企画課主任	氏家 智弘	財務課係長
〃	学生支援課専門職員	本庄 哲朗	財務課付専門職員
〃	入試課係長	川島 恵也	学生支援課係長
〃	学生支援課係長	栄浪 晋也	入試課係長
〃	研究協力課主任	上野 祐輔	学長企画室主任
〃	学長企画室主任	中村 圭吾	財務課主任
〃	財務課主任	山本 至	情報図書課主任

= 諸報 =

蔵書交換展示を実施

(情報図書課)

図書館では、平成 25 年度から毎年、旭川医科大学図書館、小樽商科大学附属図書館及び帯広畜産大学附属図書館と、蔵書の交換展示を行っています。昨年度までは 10 月上旬に 3 大学からまとめて蔵書をお借りして展示していましたが、今年度は各大学の蔵書をゆっくり見ることができるよう、期間を区切って展示することにしました。

6 月には帯広畜産大学の蔵書を、次に旭川医科大学の蔵書を 7 月に展示しました。

両大学の展示資料は、本学では所蔵が少ない分野の図書ばかりです。展示期間中、多くの学生が図書を手に取っていました。

小樽商科大学の蔵書は、10 月頃に展示を予定しています。こちらの図書も多くの学生に興味を持ってもらえるよう、展示方法も工夫したいと考えています。

図書館では、学生がさまざまな分野の図書に触れることができるよう、今後も 3 大学との蔵書交換展示を続けていく予定です。



帯広畜産大学の蔵書展示



旭川医科大学の蔵書展示

「研究倫理に関する説明会」を開催

(不正防止対策室)

6月2日(火)及び10日(水)、第1総合研究棟多目的講義室で「研究倫理に関する説明会」を開催しました。

この説明会は、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン(平成26年8月26日文部科学大臣決定)」及び「科学の健全な発展のために―誠実な科学者の心得―(日本学術振興会)」に基づき、研究者が理解し身に付けておくべき心得について再認識するため、非常勤職員を含む教員と技術部職員等を対象に開催したものです。

説明会は、受講者の参加機会に配慮し、まったく同じ内容のものを2回実施しました。2日は130人、10日は58人が参加し、

受講対象者207人のうち約91%の方が受講しました。

説明会では、コンプライアンス推進責任者で不正対策防止対策室長でもある野矢厚副学長から研究者の心得についてお話がありました。会場の収容定員を越える参加があり、不正防止に係る教員等の意識の高さを感じられました。

なお、出張等で説明会に出席できなかった場合には、CITI Japanのe-ラーニングを受講するよう案内しています。本学では、全教員等が改めて研究倫理を学ぶこととしています。



会場満員の受講風景



野矢副学長による説明

今年も NHK 学生ロボコン本選大会に出場

(社会連携推進センター)

本学ロボコンチーム「チーム・Onion」が、今年も厳しい予選選考を通過し、6月9日(火)に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されたNHK学生ロボコンの本選大会に出場しました。本学からは5年連続の出場です。

今年の種目は、バドミントンのダブルスのように、2台のロボットでペアを組んで相手ペアと戦う「ロボミントン」でした。本学を含む2高専・18大学が参加し、2台のロボットが互いに協力してどのようにシャトルを打つか、見所のある面白い試合が

展開されました。

チーム・Onionは、1回戦で仙台高等専門学校と対戦し、見事勝利を収めました。2回戦の豊橋技術科学大学との対戦で惜しくも敗退しましたが、ユニークな機構で素早くシャトルを打ち返す本学のマシンは、他チームのマシンに引けを取らず、会場の注目を集めていました。

応援には高橋信夫学長をはじめ、ロボコンメンバーOBや同窓会関東支部の方々も駆け付けてくれました。チーム・Onionの更なる活躍を期待しています。



チーム・Onion 出場メンバー



応援に駆けつけた学長とOBのみなさん

北見市と包括的連携に関する協定を締結

(総務課)

6月12日(金)、北見市と包括的連携に関する協定を締結しました。

これまでも北見市と本学は様々な場面で連携した取り組みを進めていますが、より密接に協力し、それぞれが持つ資源を地域で発揮するとともに、地方創生や人口減少問題など、新たな地域の課題に対応した地域づくりを進めることを目的として本協定を締結しました。本協定では、下記事項について連携協力することになっています。

また、本協定の締結と同時に、北見市と日本赤十字北海道看護大学との包括的連携

に関する協定も締結しました。

合同調印式では、協定書への署名の後、本学の高橋信夫学長、河口てる子日本赤十字北海道看護大学長及び櫻田真人北見市長からそれぞれ協定締結による抱負等の挨拶がありました。挨拶の中で高橋学長は、「地域が抱えている問題に共同で立ち向かい、地域の活性化を行い、若者を呼びこみたい。」と力強く発言しました。

今後は3者の連携が更に強固なものとなり、様々な交流が益々盛んになることを期待しています。

- (1) 地域づくり・まちづくりの推進に関すること
- (2) 学術振興、国際交流、教育及び人材の育成に関すること
- (3) 産業振興など地域経済の発展に関すること
- (4) 環境保全及び防災対策の推進に関すること
- (5) その他前条の目的を達するために必要な事項に関すること



協定書を手にした河口学長、櫻田市長、高橋学長

東北地区進学相談会を実施

(入 試 課)

平成27年度北見工業大学東北地区進学相談会を6月13日（土）は八戸、14日（日）は盛岡でそれぞれ実施し、合わせて166人が参加しました。当日は田村淳二副学長から挨拶

と本学の概要説明をした後、学科ごとの個別相談、高校教諭向けの説明、模擬授業等を行いました。



全体説明（八戸）



模擬授業（八戸）



高校教諭向け説明（盛岡）



個別相談（盛岡）

ハラスメント防止研修を実施

(総務課)

6月16日(火)、教職員のハラスメントに対する知識を深め、ハラスメント防止に努めることを目的として、ハラスメント防止研修が行われました。

株式会社インソースの松原恵美子氏を講師としてお招きし、アカデミック・ハラス

メントやパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメントの事例紹介を中心に、経験談も交えた講義を行っていただきました。参加した約70人の教職員は熱心に聴き入り、ハラスメント防止に対する認識を新たなものにしていました。



研修会の様子

父母懇談会（春季・北見）を開催

（学生支援課）

「父母懇談会（春季）」を、6月20日（土）に講堂を説明会場として、全学生の父母を対象に実施しました。

当日は、全国から154組206人の父母が参加し、はじめに全体説明会において、高橋信夫学長からの挨拶の後、田村淳二副学長から「本学の教育及び就職状況等」について説明がされる等、様々な情報が父母に

提供されました。

その後、各学科・専攻に分かれた個別面談では、各学科の教員が対応し、父母からは修学状況や就職等について質問が出され、熱心なやりとりが交わされました。

毎年恒例となっている大学祭に併せた開催のため、参加した父母は研究室公開等のイベントを見学する姿もみられました。



全体説明会の様子

ブックリユース「本、さしあげます。」を開催

(情報図書課)

6月20日(土)、21日(日)の2日間、大学祭期間中に合わせて第4回『ブックリユース「本、さしあげます。」』を開催しました。図書館で不用になった本や本学教職員及び学生が読み終えた本をリユース(再利用)する企画です。平成26年度に重複等で不用になった本を、地域の皆さまをはじめとした多くの方に手に取っていただき、学習や研究に役立ててもらおうと行っています。

今年はおよそ2,300冊の不用本の他、教職員及び学生が読み終えた本や、保存期間が切れた雑誌を準備しました。

多くの方に来場いただき、その中で210名の方に1,264冊の本・雑誌が譲渡され、多くの方から「工学の専門書を無料で貰えてうれしい」との声をいただきました。

来年以降もまた開催し、多くの皆さまに喜んで貰える企画にできればと思っています。



来場者が選書する様子

「研究室公開」を実施

(社会連携推進機構)

6月20日(土)、21日(日)に開催された第53回大学祭において、「研究室公開」を実施しました。普段、学外の方が目にする機会の少ない本学の研究内容を、やさしく楽しく紹介するものです。今年は9つのテーマに2日間で小さなお子様からご年配の方まで、延べ1,564の方が来場されました。

また、21日には「オホーツク地域エネルギー環境教育研究会(OE³)」が開催され、委員であるオホーツク管内の教育機関関係者や小中学校の教員等も研究室公開を体験しました。

来場者の皆さんは、施設の見学や研究の一部に触れる貴重な体験に、大満足の様子でした。

公開した研究室のテーマ
今年だって QVIC で超立体視
川にできる幾何学模様
電気をつくってみよう ー体験！風力発電ー
光学ワンダーランド
特別公開！TIPi ラボ ～情報工学技術者の卵と話そう～
きのこがつくる酵素で色を変える
走査型電子顕微鏡の体験
ロボコンのデモンストレーションおよび操縦体験
クリーンなエネルギーを学んで、化学で遊ぼう！！



光学ワンダーランド



ロボコンの操縦体験の様子

平成26年度教育優秀者表彰式を実施

(学生支援課)

6月23日(火)、平成26年度教育優秀者表彰式を実施しました。

教育優秀者表彰には「ベストティーチング賞」と「エクセレントプログラム賞」の2つの賞があり、今回両方の表彰が行われました。

「ベストティーチング賞」は平成13年度に創設されたもので、今回は平成26年度に実施した学生による授業評価の結果、授業に対する準備、熱意、指導等が顕著であるとされた9人が受賞しました。このうち1人は5度目、6人は2度目の受賞となりました。

「ベストティーチング賞」

機械工学科
社会環境工学科
電気電子工学科

情報システム工学科
バイオ環境化学科
マテリアル工学科
社会連携推進センター
共通講座

「エクセレントプログラム賞」

した。

また、授業形態や教材などの工夫で教育改善が顕著であった教員・グループを表彰する「エクセレントプログラム賞」については、社会環境工学科教員全員と、マテリアル工学科の射水雄三准教授が受賞しました。

表彰式では、高橋信夫学長から一人ひとりに盾が授与された後、受賞者に対しお祝いと激励の言葉がありました。

受賞された方々は以下のとおりです。

教授	鈴木	聡一郎
准教授	白川	龍生
教授	黒河	賢二
助教	梅村	敦史
教授	山田	浩嗣
准教授	新井	博文
教授	平賀	啓二郎
教授	鞘師	守
准教授	春木	有亮

社会環境工学科教員全員
准教授 射水雄三



エクセレントプログラム賞受賞の射水准教授

産学連携学会全国大会を開催

(社会連携推進センター)

6月25日(木)、26日(金)の両日、本学を会場に産学連携学会第13回大会を開催しました。

産学連携学会は、産学連携学の確立、産学連携従事者の能力向上、地域産学官連携活動の総合的支援等を目的としています。本大会はその主要な活動の1つとして開催されている全国大会で、各省庁をはじめ、北見市や北見工業大学社会連携推進センター推進協議会等、様々な産学官関係諸機関からの支援をいただいたの開催となりました。

今回は、典型的な地方中核都市・北見での大会となることから、全国共通の話題に加え、「地方における大学の活用」をキーワードとして大会を企画・実行しました。大会の実行には本学の教職員はもちろん学生も加わり、心のこもった運営を行いました。

開会式では、大会長である高橋信夫学長による開会宣言、伊藤正実産学連携学会長・群馬大学教授の挨拶に続き、文部科学省の坂本修一産業連携・地域支援課長、経済産業省の宮本岩男大学連携推進室長をはじめご来賓の方々からご挨拶をいただきました。その後、北見市常呂町にある株式会社しんやの新谷有規代表取締役社長から、「ホタテによる日本の牽引を目指して一仲買から養殖、そして加工・販売へー」と題

した特別講演があり、地方から日本を元気にする6次産業の実例を紹介いただきました。

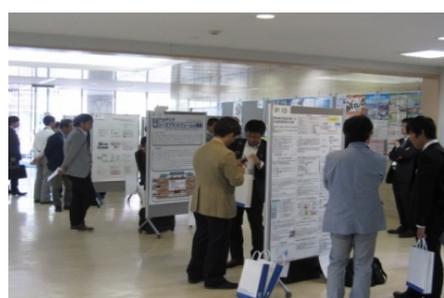
引き続き行われたシンポジウム「産業界から見た地域『産学官連携』」では、本大会の主要な論点について確認する議論が行われ、午後からは各専門セッションでの白熱した議論が始まりました。会場には全国から総勢300人を越える参加者が集い、一般講演セッションで141件、ポスターセッションで16件、オーガナイズドセッションで20件にのぼる発表・議論が行われる盛大な大会となりました。

また、25日の夕刻には200人を越える方が参加し情報交換会が開かれました。北見市留辺薬町の留青(りゅうせい)太鼓の音にのって始まった会では、櫻田真人北見市長と永田正記北見商工会議所会頭から、歓迎・お祝いの言葉をいただきました。学会の表彰式も行われ、本学の内島典子産学官連携コーディネータが、学会広報活動への貢献が認められて功労賞を受賞しました。

産業、大学、官公庁の関係者が北見の地に集い、知の拠点としての活動の重要な手法である産学連携について議論した今大会は、それぞれの立場でその意味を確認し、推進を決意する有意義な場となりました。



一般講演セッションの様子



ポスターセッションの様子

地域イベントで学生が活躍

(社会連携推進機構)

6月27日(土)に行われたソーラーフェスティバル&エキシビジョンに、本学の学生が参加しました。リサイクル啓発イベント「くるるん・きたみ」と同時開催されたこの催しには、多くの市民が来場しました。

本学からは、13人の学生とバイオ環境化学科の岡崎文保准教授が参加し、「ソーラークッカーを使ったホットケーキ作り」や「廃ペットボトルを利用したソーラーカーの製作」等を指導しました。作ったソーラーカーでレースも行い、子供たちからは歓声が上がっていました。

6月28日(日)に開催された第48回おけと夏まつりには、本学の学生がボランティアとして活躍しました。今年は置戸町の開町100周年記念を兼ねて盛大に開催され、本学学生は人間ばんばレースの審判、投票券の確認や引換え係、さらに子どもお祭り広場などのスタッフとして、地元関係者と交流しながらおまつりの運営に貢献しまし

た。置戸町の皆さんからは、元気ある学生の力に感謝され、帰りにはたくさんのお土産をいただきました。

また、7月19日(日)に北見市香りゃんせ公園で開催された「第19回香りゃんせフェスティバル」にも、本学の学生が参加しました。会場の「ソーラーエネルギー実行委員会」ブースでは、水陸両用ソーラーカーの製作指導やエネルギー・環境についての説明などを4人の本学学生が行い、大いに活躍していました。

このような地域イベントへの学生参加は、大学の地域貢献の一環として、より活発になってきています。その活動は、少子高齢化が進む地域から、イベントの運営や活性化の上で大きな効果があると高く評価されています。今後も、学生や教職員が協力しあい、地域との交流やイベント等へ積極的に参加していきたいと思えます。



地域イベントに参画する学生たち

「オホーツク地域活力支援包括連携協力に係る 網走開発建設部現場見学会」に参加

(研究推進機構)

6月29日(月)、国土交通省北海道開発局網走開発建設部が開催したオホーツク地域活力支援包括連携協力に係る見学会に、本学学生及び教職員19人が参加しました。

本見学会は、日本赤十字北海道看護大学、東京農業大学生物産業学部、北海道開発局網走開発建設部と本学の4者で締結している「オホーツク地域活力支援包括連携協定」に基づく交流の一貫で行われました。相互の理解を深める目的で互いの施設を見学する機会を設けるもので、毎年、見学場所を代えて実施しています。

今年には網走開発建設部の施設を見学場所に、3機関の希望者が見学会に参加しました。本学からは研究協力課職員に加え、機械工学科から星野洋平准教授と4年次学生や大学院生も参加し、普段は一般人が立ち入ることができない防波堤ケーソンの制作現場や、美女地区本郷排水機場の内部を見学することができました。

網走開発建設部が担う人の生活に密着した多様な業務の一端を見ることができ、大変勉強になった見学会でした。



足場に登りケーソン制作現場を見学



本郷排水機場のコントロール室

技術セミナー「技術士養成支援講座」の閉講式

(研究協力課)

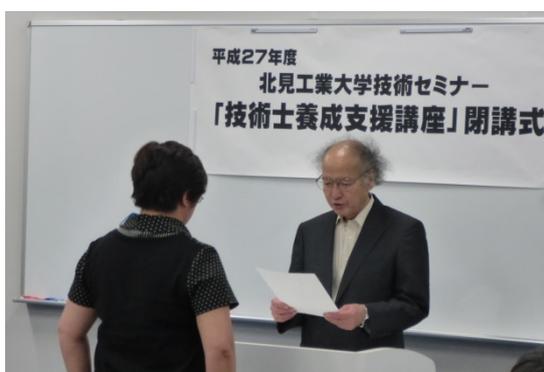
平成27年度の技術セミナー「技術士養成支援講座」の閉講式を、札幌会場7月3日(金)、北見会場7月4日(土)に行いました。

本講座は、本学出身の技術士が講師の中心となり、技術士資格取得を目指す社会人を対象とし、実践的な指導により「技術士」の資格取得を支援するものです。募集すると即日で定員が充足するほど人気の講座で、社会での技術士資格の重要性がうかがえます。平成19年度から開講しており、9回目の開催となる今回は、本学札幌サテライトを会場として14人、本学を会場として10人の、合計24人が受講していました。

4月から7月までの合計4回にわたる本講

座は、社会人の受講生が参加しやすいよう土曜日や夜間に講義を設定しました。

札幌会場は高橋信夫学長から、また北見会場は清野千春研究協力課長から、受講生に対して「受講証書」を渡しました。受講者は7月19日(日)、20日(月)に実施される筆記試験に向けて最後の追込みとなっています。10月の筆記試験合格発表、その後の3月の口頭試験まで、仕事との両立を図りながら試験勉強が続きます。この講座で学んだ成果を十二分に発揮し、最終の口頭試験の合格発表時に1人でも多くの「合格」報告を期待しています。



高橋学長から受講証書授与(札幌)



清野研究協力課長から受講証書授与(北見)

平成 27 年度第 1 回パソコン講習会を開催

(社会連携推進機構)

7月3日(金)から7月24日(金)まで全6回に及ぶ平成27年度第1回パソコン講習会を、第1講義棟語学演習室にて開催しました。

本講習会は、大学改革推進事業(現代的教育ニーズ取組支援プログラム)の一環として平成16年度から開始しました。大学改革推進事業終了後も実施を継続し、今年度で12年目となります。

今回は、10代から80代までの幅広い世代から男女9名が受講し、電子メールの使い方、デジタルカメラでの写真撮影、写真

の編集・共有の方法、暑中見舞いはがきの作成等、パソコンの様々な使い方について講習を行いました。

また、今回もアシスタントとして本学学生サークル「おにおんリング」のメンバーが参加してくれました。受講後アンケートでは、「アシスタントの学生が親切だった」、「教え方が丁寧だった」との評価をいただきました。

11月にも第2回パソコン講習会を開催する予定で、多くの方に受講してもらいたいと考えています。



パソコン講習会の様子

テクノトランスファーinかわさき 2015 に出展

(社会連携推進センター)

7月8日(水)から10日(金)の3日間、かながわサイエンスパーク(以下、KSP)で開催された「テクノトランスファーinかわさき 2015」に出展しました。

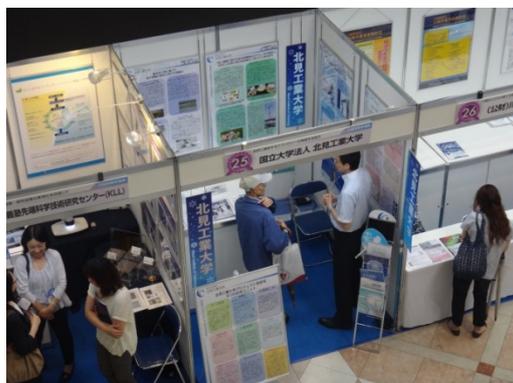
本フェアは、公益財団法人神奈川県産業振興センター、神奈川県、川崎市が主催したものです。今年は128の組織・機関からの出展があり、約7,800人の来場がありました。川崎市産学連携コーナーには本学も含め大学など17機関が参加しました。

本学は、平成22年に公益財団法人川崎市産業振興財団が取り組む地域を越えた産学連携推進活動の連携大学として「川崎試作開発促進プロジェクト」に加入しました。以来、川崎市産業振興財団との関係及び連携大学とのネットワークも強化・拡大しており、大学間も含めた川崎地域での連携拡大の場として、そして本学の良さや特徴を

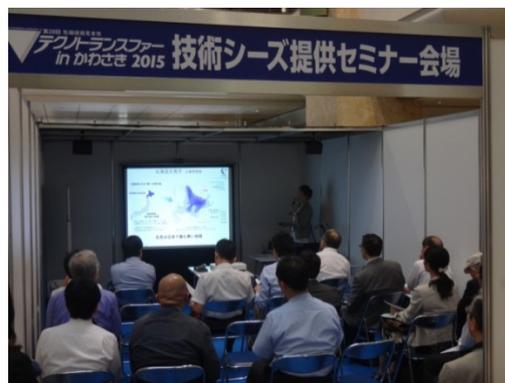
広く社会に伝えるための広報活動の一環として、本フェアに継続的に参加しています。

「技術シーズ提供セミナー」では、社会連携推進センターの内島典子産学官連携コーディネータが、北見地域の環境を含めた大学の特徴を知ってもらうため40分間のプレゼンテーションを行いました。セミナーの定員いっぱいのご参加をいただき、技術広報、大学広報として参加価値の高い有意義な場となりました。

これまで、本フェアへの出展から本学学生の就職へと発展した実績もあります。今回もセミナーや本学出展ブースに多くの方が来場し、寒冷地工学をはじめ本学に大きな関心をいただきました。今後も、次に繋がるような出会いの場となることを期待し、本イベントに継続的に参加していく予定です。



北見工業大学ブース



内島産学官連携コーディネータによる
北見工業大学の紹介

技術セミナー（CPD プログラム認定講座）を開催

（研究協力課）

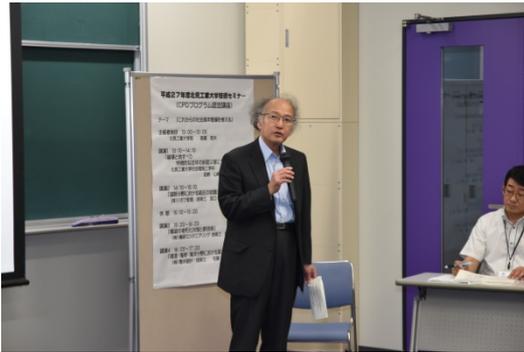
7月10日（金）、平成27年度技術セミナー（CPD プログラム認定講座）を第1 総合研究棟多目的講義室で開催しました。

本セミナーは、地域貢献活動の一環として、土木・建設関係技術者に最新の技術動向及び建設コンサルタントを取り巻く状況等についての理解を深めてもらうため、平成23年から実施しているもので、建設コンサルタント協会の認定講座です。

セミナーでは、「これからの社会資本整備を考える」をテーマに、本学社会環境工学科 山崎新太郎助教をはじめとして、本学

技術士養成支援講座の講師でもある株式会社ドボク管理 坂口彰則氏、株式会社構研エンジニアリング 岩渕直氏、株式会社豊水設計 佐藤之信氏が講演しました。

平日にも関わらず、オホーツク管内や帯広等から設計、測量、コンサルタント関係の技術者、自治体職員・北海道職員等、募集定員100人を越える参加希望がありました。参加者は、社会資本整備の現状や最近の取組等、政府の経済施策情報を交えた講師の説明に熱心に耳を傾けていました。



高橋学長の開会挨拶



参加者で満席の会場

学生選書ツアーを実施

(情報図書課)

7月10日(金)、平成27年度第1回「学生選書ツアー」を実施しました。

学部学生及び大学院生7人が参加し、今回は「考え方が変わった本」「勉強の息抜きに読みたい本」「友達に薦めたい本」のテーマのもと、それぞれ選書を行いました。

マのもと、それぞれ選書を行いました。

選ばれた合計28冊の本は、選んだ理由等を記載したカードと一緒に、9月下旬まで図書館の展示コーナーにて展示を行っています。



選書の様子

留辺薬小の科学教室 本学学生が先生に

(社会連携推進機構)

7月11日(土)に留辺薬小学校で開かれた親子科学教室で、本学バイオ環境化学科とマネジメント工学コースの7人の学生が先生役を務めました。

学生たちは、「振動で発電する装置の製作」や液体窒素を使った「瞬間アイスクリーム作り」、「風船の冷却実験」、「廃CDを使ったホバークラフト作り」、「空気砲作り」を指導しました。留辺薬小学校の子どもたちは、『先生』である本学学生から作り方や原理を教わり、楽しそうに勉強していました。見守っていた小学校の先生方は、学生の工

学系の知識や、生徒との年の近さが子どもたちの大きな興味を引き出している様子に感心していました。また、「来年以降も継続的に来てほしい」と、小学校から早々と予約の要望もいただきました。

科学教室の先生役を務める経験は、学生たちにとっても貴重です。教えることの難しさ、準備や工夫の大切さ、工作技術の活用や安全への配慮など、学生が多くのことを学ぶ好機にもなっています。今後もこのような活動を継続していきたいと考えています。



親子科学教室の様子

第 62 回北見ぼんちまつり舞踊パレードに参加

(社会連携推進機構)

7月17日(金)、北見夏まつりの名物である「北見ぼんちまつり舞踊パレード」に今年も北見工業大学チームが参加しました。

学内に参加募集を行ったところ、学生が留学生を含む74人、教職員が36人、さらに国際交流協定校であるポーランドのクラクフ工業大学から学生及び引率者を併せて10人が参加することとなり、総勢では昨年と同様120人の結成チームができあがりしました。

今年の舞踊パレードには30団体2,800人余りが参加し、連日の暑さが続いた中で開催となりました。本学のチームは団体長の野矢厚副学長を先頭に、日頃着る機会の少ない浴衣を身につけ、「北見ばやし」に合わせた元気なかけ声や活気に溢れた踊りで中心商店街を練り歩きました。

今後も地域との交流を楽しみながら、学生の元気で地域を盛り上げていきたいと思えます。



野矢副学長を先頭にパレードする
北見工大チーム



北見ばやしで盛り上がる学生たち

北洋銀行ものづくりテクノフェア 2015 に出展

(社会連携推進センター)

7月23日(木)、アクセスサッポロを会場に開催された「北洋銀行ものづくりテクノフェア 2015」に出展しました。

本フェアは、北海道内のものづくり産業を振興するためのイベントで、今年で9回目となります。今年も経済産業省北海道経済産業局をはじめ、多くの公組織・企業団体の後援を得て開催されました。今年は、マッチングの拡大を図る企画として東京都大田区、静岡、愛知、東北からも出展があり、産学官金連携の強化・拡大、そしてものづくり人材の育成とその向上を目指しての開催となりました。出展は産業界を中心に過去最多の209社・団体となり、そのうち大学・高専からの出展は11件でした。また、展示技術に興味を持ち参加した来場者数も過去最大の約4,400人となりました。

本学は1回目から共催機関の1つとして出展参加しています。今年も本学「研究ユニット」、中でも医工連携、工農連携、冬季スポーツの各研究ユニットで取り組んでいる研究を詳細に展示・紹介しました。同会場に設置された商談スペースでは、終日多くの商談が展開され、本学にも3件の商談がありました。

また、同時開催の「道内企業と道内大学、高専、公設試の共同研究発掘フェア～産学

官金連携で『まち・ひと・しごと創生』の実現を～in 北洋銀行ものづくりテクノフェア」にも参加し、本学の技術シーズを紹介しました。

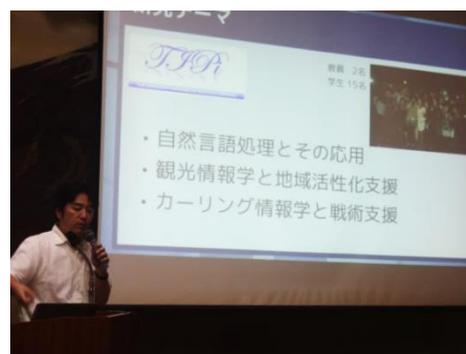
本学を含む道内の信用金庫・大学・高専・公設試が主催となって開催された本共同研究発掘フェアは、主に道内の企業向けに研究内容や研究室の設備・特徴等を分かりやすく紹介し、共同研究のきっかけをつくることを目的としています。今回は、比較的札幌圏に集中しているIT関連の企業をターゲットとし、「情報・通信」に分野を絞って実施しました。

本学からは、大学を取り巻く特徴的な環境やその中で展開される教育・研究について、情報システム工学科 榎井文人准教授が取り組む「自然言語処理とその応用」「カーリング情報学」「観光情報学」の3つの研究について紹介しました。どの研究テーマも地域への活用を強く意識したもので、新たな地域貢献の実現に向けて発展していくことが期待されています。

今回の展示を通じて、本学の長長について来場者に強くアピールすることができました。本フェアは研究の広報のみならず、大学の広報としても大きな成果を挙げる機会となりました。



北見工業大学ブース



研究を紹介する榎井准教授

オープンキャンパスを開催

(入 試 課)

7月25日(土)、高校生や保護者等を対象に本学の教育研究内容や学修支援環境を紹介することを目的として、オープンキャンパスを開催し、321人が参加しました。

当日は高橋信夫学長の挨拶、田村淳二副学長の大学概要の説明、各系列長による3

系列の紹介の後、参加者は各学科において体験学習等に参加しました。

昼食は在学生に人気のメニューが本学生協食堂で参加者全員に提供され、午後からも体験学習や個別相談等が行われました。



田村副学長による大学概要の説明



系列説明



体験学習



自由見学



学食体験



個別相談

平成 27 年度工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業開講式

(社会連携推進センター)

7月28日(火)、社会連携推進センターが中心となり進めている「工学連携推進型地域6次産業人材育成事業(旧・新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン)」の開講式を行いました。

本事業は、第1次産業産品の工業製品化を地域戦略の柱とし、健康と安心・安全をキーワードにした新規作物の作付けから商品開発・事業化までの知識とスキルを持つ「工学的農業クリエイター」の創出を目指す人材育成プログラムです。本学が取り組んでいる人材育成活動であり、昨年度からは北見市の協力も得て運営しています。

開講式では、川村彰社会連携推進センタ

一長による開講の挨拶に続き、受講生による自己紹介・決意表明、有田敏彦社会連携推進センター教授による事業説明が行われました。今年度の受講生は社会人2名、本学学生2名の計4名です。社会人受講生は、昨年度から3年間の計画で行っているタマネギソースや小麦関連商品の開発を継続します。学生受講生は、地域の大豆粉を活かした商品の開発や、微生物の活用による地域6次産業の創出に挑戦します。

本事業では、本学工農連携研究ユニットの活動と連動させながら、修了生の継続的なフォローアップや人材育成を推進していく予定です。



開講式で挨拶する川村社会連携推進センター長

子ども霞が関見学デーに出展

(総務課)

7月29日(水)、30日(木)に行われた「子ども霞が関見学デー」に、本学から出展しました。

「子ども霞が関見学デー」は、文部科学省をはじめとした府省庁等が連携して業務説明や省内見学などを行うことにより、親子のふれあいを深め、子どもたちが夏休みに広く社会を知る体験活動の機会とするとともに、府省庁等の施策に対する理解を深めてもらうことを目的とした取り組みです。見学デーでは子どもたちを対象とし、広く社会を知る様々なプログラムを設けました。

そのプログラムの1つとして、本学から「北見工業大学と雪と氷の世界を感じてみよう～クリオネを見よう・流氷にさわろう～」と題し、文部科学省2階のエントランス前広場に出品しました。

雪の結晶をモチーフとした万華鏡の作成や、路面状態を自動で判別する開発したシステム「路面凍結センサー」の実演、そして北海道から持ち込んだ雪と流氷に子どもたちは大喜びの様子でした。また、文部科

学省2階エントランスにはクリオネの展示も行い、子どもたちからはクリオネの小ささに驚きの声が上がっていました。

猛暑の中での開催となりましたが、2日間で2,678人の子どもたちが文部科学省を訪れ、本学のプログラムも大盛況でした。子どもたちに多くのことを体験してもらうと同時に、北見工業大学周辺の自然環境や研究内容について知ってもらうことができました。

また、文部科学省情報ひろばでは、本学の企画展示を8月から11月まで行っています。『寒冷地工学からの挑戦～雪と氷の神秘・雪氷災害の減災に向けて～』と題して、見学デーで実演も行った路面凍結センサーや、寒冷地ならではの工夫が施された「碍子(がいし)」の展示に加え、スライドショーによる南極でのフィールド調査の様子を紹介などを行っています。情報ひろばでの展示を終えた後は、本学KITギャラリーでの展示を予定しています。



万華鏡作成の様子



雪と流氷にさわって涼む子どもたち

= 日誌 =

6 月

- 1日 オホーツク産学官融合センター事務局会議、社会連携推進センター運営会議
- 2日 研究倫理に関する説明会、教務委員会、入学者選抜委員会、編入学試験（学力試験入試）出願受付（～8日）
- 3日 教授会、研究科委員会、編入学試験（推薦入試）合格発表
- 4日 研究推進機構統括会議
- 8日 大学院博士前期課程入学試験一般入試（推薦入試併願）出願受付（～12日）
- 10日 研究倫理に関する説明会
- 13日 東北地区進学相談会（八戸）
- 14日 東北地区進学相談会（盛岡）
- 15日 大学院入学試験出願受付（～25日）
- 20日 春季父母懇談会、大学祭（～21日）、研究室公開（～21日）、ブックリユース（～21日）
- 21日 オホーツク地域エネルギー環境教育研究会
- 23日 教育研究評議会、教育優秀者表彰式
- 24日 経営協議会、役員会、学長選考会議、編入学試験（学力試験入試）
- 25日 不正防止対策室会議、産学連携学会第13回大会
- 30日 教務委員会

7 月

- 1日 大学院博士前期課程入学試験一般入試（推薦入試）面接試験
- 3日 技術セミナー（技術士養成支援講座）（札幌会場）閉講式
- 4日 技術セミナー（技術士養成支援講座）（北見会場）閉講式
- 6日 北見工業大学地域コア運営委員会、オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 7日 地域連携・国際交流委員会、入学者選抜委員会、社会連携推進センター運営会議
- 8日 教授会、研究科委員会、大学院博士前期課程入学試験一般入試（推薦入試併願）選考結果通知、編入学試験（学力試験入試）合格発表
- 9日 発明審査委員会
- 10日 技術セミナー（CPDプログラム認定講座）、学生選書ツアー
- 14日 不正防止対策室会議
- 21日 インターンシップ事前研修会
- 22日 学術情報委員会
- 25日 オープンキャンパス
- 28日 工学連携推進型地域6次産業人材育成事業開講式
- 29日 教育研究評議会